

令和6年度 自己評価および学校関係者評価書

令和7年3月5日
函館市立鍛神小学校

1 本年度の重点教育目標

みがきあい みんな輝く かやげの子

2 本年度の取組の重点

① 組織力の強化 ② 確かな学びの実現 ③ 特別支援教育の充実 ④ 豊かなつながり

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価	主な意見（改善策など）
①組織力の強化	4つのワークの強化 ・チームワーク（連携・協働，報道相確の徹底） ・ネットワーク（家庭や地域との連携） ・フットワーク（素早い対応） ・ハートワーク（愛情と情熱と相手意識）	a	・教職員の経営参画意識の向上を図り組織力を強化していく。 ・学校内だけでなく、地域や家庭、関係機関との連携・協働を図りながら、よりよい教育活動を推進していく。 ・丁寧な説明に努め、家庭の理解を得ながら業務改善を推進していく。	A	A	
②確かな学びの実現	鍛神スタンダードの徹底	b	・学習規律の「かやげスタンダード」を徹底する。 ・授業の進め方について、そろえた授業展開を行っていく。	A	A	
	指導の充実 ・個別最適な学びと協働的な学びの実現 ・ICTの活用 ・算数の習熟度別・少人数指導 ・基礎基本の定着 ・「自ら学ぶ」学習習慣の定着	a	・算数科における基礎基本の定着に向け、課題に繰り返し取り組む機会を設定する。 ・ICTを効果的に活用し、個別最適な学びを推進する。	A	A	・昔と今では、学習や指導の仕方が変わってきているので、先生方は大変だなと感じました。 ・様々な授業形態や専科の先生の授業端末活用の授業等が見られて良かった。
	校内研修の充実 ・日常の授業改善 ・問題解決的探求型授業の充実 ・対話や交流で思考を深める授業実践	a	・主体的・対話的で深い学びを推進するために、個別最適な学びと協働的な学びを意識した教育活動を展開する。	A	A	
③特別支援教育の充実	インクルーシブ教育を意識した取組の充実 ・個に応じた交流と共同学習の充実 ・分かる授業の充実（ユニバーサルデザイン・合理的配慮） ・特別支援委員会の充実と関係機関との連携	a	・支援を要する児童について支援チームで対応するとともに、関係機関との連携を図る。 ・個に応じた支援・指導ができるよう、組織的な取組を継続していく。	A	A	・中学校の支援級の授業なども見てみたい。小学校から中学校へ進学しての子どもの変化が見たい。
④豊かなつながり	心のつながりを大切にしたい指導の充実 ・気持ちのよいあいさつの定着 ・学級学年全校での交流と学び ・読書活動の充実	b	・気持ちよいあいさつの定着や、相手を思いやる心の育成を図る。 ・魅力ある図書室づくりを進め、外部人材や家庭と連携しながら読書習慣の定着を図る。	A	A	・電子図書の導入があれば良いと思います。
	地域に学ぶ教育活動の充実 ・地域の教育力の活用，関係機関との連携 ・義務教育9年間を見通した子どもの育成（小中連携） ・幼稚園，保育園，福祉施設との連携	a	・地域の方々とのつながりを生かす教育活動を整理・充実させる。 ・中学校からの乗り入れ授業を開催し，中学校へのスムーズな接続を図る。 ・近隣幼稚園や保育園，福祉施設にご協力いただき，異校種連携を実施する。	A	A	・より一層、幼保・福祉施設・中・関係機関などと、連携・協力を図ってけると良いと思います。

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた（8割以上）
b	概ね達成できた（6割以上）
c	十分ではない（4割以上）
d	達成できなかった（4割未満）

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり，取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが，若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが，若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。